

氏名	高崎 博司	部署	理学療法学科	職名	准教授
研究分野	運動器理学療法				
学位	博士（理学療法学）				
学歴	2004年札幌医科大学理学療法学科、6年札幌医科大学大学院修士課程保健医療学研究科徒手療法学専攻、13年クイーンズランド大学大学院博士課程				
経歴	2013年クイーンズランド大学博士研究員、14年埼玉県立大学理学療法学科講師				
所属学会（役職）	日本理学療法士協会、日本整形外科スポーツ医学会				

【2016年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者（発表者は○印）	発行・発表年月
(1) 著作					
1	姿勢と体幹の科学	共著	新星出版社	藤縄理、高崎博司	2017. 2
(2) 論文					
1	Inter-examiner classification reliability of Mechanical Diagnosis and Therapy for extremity problems - Systematic review.	共著	Musculoskeletal Science and Practice ; 27 ; P. 78-84	Takasaki H, Okuyama K, Rosedale R.	2017. 2
2	Immediate improvement in the cranio-cervical flexion test associated with MDT-based interventions: a case report.	共著	Journal of manual and manipulative therapy ; 24(5) ; P. 285-292	Takasaki H, Herbowy S.	2016. 12
3	Use of the Physiotherapy Evidence Database (PEDro) in Japan	共著	Physical therapy research ; 19(1) ; P. 58-66	Takasaki H, Elkins MR, Moseley AM.	2016. 12
4	The effect of shoulder muscle fatigue on active repositioning acuity and scapulothoracic resting alignment: A systematic review with meta-analysis	共著	Physical Therapy in Sport ; Jul(20) ; P. 61-78	Takasaki H, Lim EC, Soon B.	2016. 7
5	クイーンズランド大学での理学療法学博士号取得の経験	単著	徒手理学療法 ; 16(1) ; P. 61-64	高崎博司	2016. 5
6	Agreement of Mechanical Diagnosis and Therapy Classification in Patients With Extremity Conditions	単著	Physical Therapy ; 96(10) ; P. 1525-1532	Takasaki H.	2016. 1
(3) 学会発表					
1	Reliability of mechanical diagnosis and therapy classification for extremity problems using real patients	単著	The International Federation of Orthopaedic Manipulative Physical Therapists Conference 2016, Glasgow, Scotland	○Takasaki H.	2016. 7
(4) その他					
1	該当なし				
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別			研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究B）	習慣的座位姿勢の改善がマッケンジー法による腰痛改善程度に与える影響の解明（研究責任者）			2015. 4-2018. 3

2	埼玉県立大学 奨励研究	ハムストリングスの体幹伸筋群に対する相対的柔軟性は習慣的座位姿勢と相関するかについての検討（研究責任者）	2016. 4-2017. 3	
3. 教育業績				
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
(1) 講義				
1	身体機能運動学	2016. 4-8	運動学と神経生理学のつながりを説明した	
2	生体力学応用分析学	2016. 10-11	力学的な理学療法評価治療を指導した	
3	運動器障害治療学特論（大学院）	2016. 4-8	運動器理学療法の評価と治療を指導した	
(2) 演習				
1	理学療法セミナー（OSCE1）	2016. 8	理学療法評価の実践能力を評価した	
2	理学療法セミナー（OSCE2）	2016. 4	理学療法評価の実践能力を評価した	
3	理学療法特別演習	2016. 10-2017. 3	統計学・研究法について国家試験の対策を行った	
4	リハビリテーション学演習（運動器障害治療学）（大学院）	2016. 10-2017. 3	高度な運動器理学療法の評価と治療を指導した	
(3) 実習				
1	運動学実習	2016. 4-8	運動学に関する実習を行った	
2	物理療法学実習	2016. 4-8	温熱・寒冷・光線療法の実習と徒手牽引や軟部組織モビライゼーションの指導をした	
3	ヒューマンケア体験実習	2016. 9	連携と統合を学ぶ実習のファシリテーターをした	
4	機能診断学実習	2016. 10-2017. 3	徒手スペシヤルテストの腰部下肢編の実技指導を行った	
5	臨床教育実習Ⅰ	2017. 2-3	副担任として実習中の対応をした	
6	臨床教育実習Ⅱ	2016. 10-11	実習地訪問と学生評価を行った	
7	臨床教育実習Ⅲ	2016. 4-6	実習地訪問と学生評価を行った	
8	臨床教育実習Ⅳ	2016. 6-8	実習地訪問と学生評価を行った	
(4) 論文指導				
1	学部卒業研究（15期生）	2015. 4-2017. 3	主指導：4名	
2	学部卒業研究（16期生）	2016. 4-	主指導：2名	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会等の講師				
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	平成28年度臨床実習指導者講習会	埼玉県立大学	徒手理学療法	2016. 9
2	第10回 日本理学療法学生協会関東支部大会	日本理学療法学生協会	海外×理学療法	2016. 9
(2) 国、自治体、財団法人等における委員等				
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期	
1	The McKenzie Institute International	MII Research Advisory Committee	2017. 1-	
2	埼玉県理学療法士会	オリンピック・パラリンピック対策委員会	2016. 10-	
3	第22回日本徒手理学療法学会学術大会	学会準備委員長	2016. 10-2017. 4	
4	専門リハビリテーション研究会	渉外部	2016. 4-	
5	第51回日本理学療法学会学術大会	学会準備委員（広報渉外局局长）	2015. 10-2016. 5	
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			
5. 学内運営（委員会委員）				
1	国際交流委員会 委員			
2	FD企画部 委員			
3	SPU学会 理事			

6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の保有状況			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	春日部市体力測定委託事業		
2	The International Federation of Orthopaedic Manipulative Physical Therapists Conference 2016（グラスゴー・スコットランド）での学会運営貢献（座長として）		
3	Singapore International Physiotherapy Congress 2016（シンガポール）での学会運営貢献（査読者として）		